日付

表紙タイトル

株式会社アイ・テック

|  |
| --- |
| 確認 |
|  |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| (株)ソエジマ見学 | | 日時 | 2022年10月25日 | 場所 | (株)ソエジマ宇都宮工場 | |
| 記録 | 荒木 | |
| 出  席  者 | (株)ソエジマ | 工場長　前田様　品質管理部長　松村様 | | | |  |
| アポロメタルテック(株) | 代表取締役　田中様　シニアアドバイザー　奥田様 | | | |
| (株)アイ・テック | 工場見学参加者12名 | | | |
| (株)ソエジマ宇都宮工場の設備および製作状況をご見学させていただきました。見学風景は次頁以降で説明させていただき、本頁では見学前後の質疑応答をまとめました。  ○ソエジマ様からの見学前説明概要  (株)ソエジマは、１９５８年大阪発祥の鉄骨ファブリケータで、その後１９９１年に和歌山に移転したのち、２０１３年にここ宇都宮に移転し、２０１７年に宇都宮市内を移転し現在に至ります。  移転後は、社長の鉄骨製作の一貫自動設備の構築を目指し、段階を設けて設備投資を行って参りました。  現在は自動組立ロボットまで稼働が成功しており、ガセットプレート類の仕分けロボット、梁へのガセットプレート類の取付ロボット、および組立溶接ロボットが現在稼働しております。  将来的には、全自動溶接ロボットおよび無人搬送機を設備投資することにより、大梁の完全自動化を達成する予定です。  工場内はなるべく製品を動かさないことを考えながらレイアウトを行っております。製品を動かして溶接工程や仕上げ工程に移行していくよりは、製品に応じて、溶接工や塗装仕上げなどを行うようにすることにより、製品が効率よく現場へ納入される仕組みをとっています。  上記の自動化および効率化を達成するためには、製品図面の決定だけで無く、製品の搬出順序など全てを製作前時点で決めて行う必要があり、これをソエジマは徹底しております。  ○見学後質疑応答概要  (アイ・テック)溶接ヒューム等よけ等のフードは、設置する必要はないのでしょうか。  →(ソエジマ様)　ご指摘の通り対処する必要はあるのですが、なにぶん優先度が低く対応ができていない状況です。  (アイ・テック)今回のような自動化を達成する際において、お手本とした工場などございますでしょうか。  →(ソエジマ様)お手本とした工場はございません。社長がアメリカ/イギリス等を海外視察したときに、鉄骨製作工場の自動化の現状に感銘を受け、ここでも実現したいと考えたのがきっかけです。そのためロボットはオーストリア製など海外ブランドのものとなっており、zeman社とコラボレーションしながら自動化設備を構築して参りました。特にわが社の特徴であるH形鋼を立てた状態(I形)で製品を流したいという要望については、積極的に知恵を出し合いながら設備設計構築を行いました。  → | | | | | | |

|  |  |
| --- | --- |
| 2022/10/25　(株)ソエジマ宇都宮工場　工場見学 | |
|  | 円谷専務によるはじめの挨拶 |
|  | 当日配布資料 |
|  | (株)ソエジマ様の工場概要説明状況  右　品質管理部長　松村様  左　工場長　前田様 |